



# 2026年3月期決算説明会

「ヨコハマ」発のロジスティクスパートナー

丸全昭和運輸株式会社

2026年5月20日

東証プライム  
9068



1. 2026年3月期決算概要
2. 2027年3月期通期見通し
3. 事業の進捗とトピックス  
第9次中期経営計画の進捗状況など
4. 株主還元・企業価値向上への取り組み

# 2026年3月期決算：増収増益、営業利益は過去最高を更新、2027年3月期も更新へ

『物流は、愛だ。』

## ● 2026年3月期決算：2027年3月期見通し・配当について

### 2026年3月期 実績

売上高 **148,603**百万円  
前期比 2.8%増

営業利益 **15,462**百万円  
前期比 5.6%増

#### 売上高

新規連結子会社の増加、新規案件の取り込みや、幅広い荷主構成が功を奏し、荷主全体では取り扱い増加

#### 営業利益

業務効率化や利益率の高い業務の取り扱いの増加、料金適正化が寄与

### 2027年3月期 見通し

売上高 **162,000**百万円  
前期比9.0%増

営業利益 **17,000**百万円  
前期比 9.9%増

新規荷主の開拓、  
既存荷主の取り扱い増加を見込む

### 株主還元

2026年3月期配当 **210**円

期末配当は+30円増配

中間配当	期末配当	年間配当
90円 (+10円)	120円 (+30円)	210円 (+40円)

2027年3月期配当 (予想)  
前期と同額の年間**210**円

今期 (2027年3月期) 予想

中間配当	期末配当	年間配当
90円 (+0円)	120円	210円 (+0円)

## 第9次中期経営計画の数値目標進捗状況

『物流は、愛だ。』

- 2028年3月期（最終年度）目標 売上高1,760億円、経常利益185億円へ
- 2026年3月期ROE 9.3%（前期は7.7%）と着実に改善中

(単位：億円)	第8次中計	第9次中期経営計画			
	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績①	2027年3月期 予想②	2028年3月期 予想③	要目標達成額 ③－①
売上高	1,445	1,486	1,620	1,760	+274
経常利益	157	166	175	185	+19
ROE	7.7%	9.3%	9.0～10.0%		—

### 投資計画

設備投資：400億円（DX投資を含む）

M & A 枠：100億円

### 資本政策

配当性向：長期安定配当の継続を基本方針

3年間の連結ベースで35%以上を目標

政策保有株式：積極的な縮減を図る



# 1. 2026年3月期決算概要

● 売上高1,486億300万円（前年同期比+2.8%）、営業利益154億6,200万円（同+5.6%）

増収増益の理由

1. 一部荷主で取り扱いが減少したものの、M&Aによる新規連結子会社の増加、新規案件の取り込み、幅広い荷主構成が功を奏し、全体では取り扱いが増加して増収増益
2. 当社の強みである高品質なサービスを背景として、業務効率化や利益率の高い業務の取り扱い増加、料金適正化が寄与し、利益率がさらに向上
3. 前期計上の特別損失（減損損失）は今期計上額を縮小、最終損益は大幅増

売上高

148,603百万円

前期比 2.8%増

新規連結子会社の増加、新規案件の取り込み、幅広い荷主構成が功を奏し、荷主全体では取り扱い増加

営業利益

15,462百万円

前期比 5.6%増

新規案件の取り込み、幅広い荷主構成が功を奏し、荷主全体では取り扱い増加

親会社株主に帰属する  
当期純利益

12,685百万円

前期比 29.4%増

前期計上の特別損失(減損損失)は今期は計上額を縮小、最終損益は大幅増

## 2026年3月期決算概要：売上高・営業利益は期初計画には未達だが増収増益

『物流は、愛だ。』

- **売上高** : 化成品、日用雑貨や建材の取り扱いが減少するも、建設機械、穀物、電力機器関連の取扱いは増加。米国では青果物の取り扱いが増加  
プラント案件が昨年度完了し取り扱いが減少したものの、新規取引（酒類）及び新規連結子会社の増加（穀粉）が寄与
- **営業利益** : 業務効率化の進展、利益率の高い取引の増加、料金適正化により利益率の確保
- **固定資産減損** : 昨年度、海外現法固定資産について減損損失を計上したが、今期は発生せず解消し増益

(単位：百万円)	2025年3月期	売上比率 (%)	2026年3月期	構成比 (%)	前期比 (%)	金額差異	期初計画
売上高	144,572	100.0	148,603	100.0	+2.8	+4,031	153,000
売上総利益	19,616	13.6	20,617	13.9	+5.1	+1,001	—
販売費及び 一般管理費	4,967	3.4	5,155	3.5	+3.8	+187	—
営業利益	14,648	10.1	15,462	10.4	+5.6	+813	16,000
経常利益	15,769	10.9	16,648	11.2	+5.6	+879	16,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,804	6.8	12,685	8.5	+29.4	+2,881	12,000

## 2026年3月期 決算概要（上期・下期比較）

『物流は、愛だ。』

上期下期ともに貨物取扱量は増収基調で推移

- 売上高：上期下期ともに増収。下期は新規連結会社の増加により増収幅が拡大
- 売上総利益：利益率の高い案件受注・料金改定・コストコントロールによる総コストの低減により利益率改善

	2025年3月期			2026年3月期					
	上期	下期	合計	実績			期初計画		
(単位：百万円)	上期	下期	合計	上期	下期	合計	上期	下期	合計
売上高	71,237	73,335	144,572	72,239	76,364	148,603	76,500	76,500	153,000
売上総利益	9,424	10,192	19,616	9,990	10,627	20,617	—	—	—
販売費及び 一般管理費	2,543	2,424	4,967	2,472	2,683	5,155	—	—	—
営業利益	6,881	7,767	14,648	7,518	7,944	15,462	8,000	8,000	16,000
経常利益	7,374	8,395	15,769	8,107	8,541	16,648	8,400	8,100	16,500

事業別「売上高」「営業利益」 主力の物流事業、構内作業及び機械荷役事業は増収増益 『物流は、愛だ。』

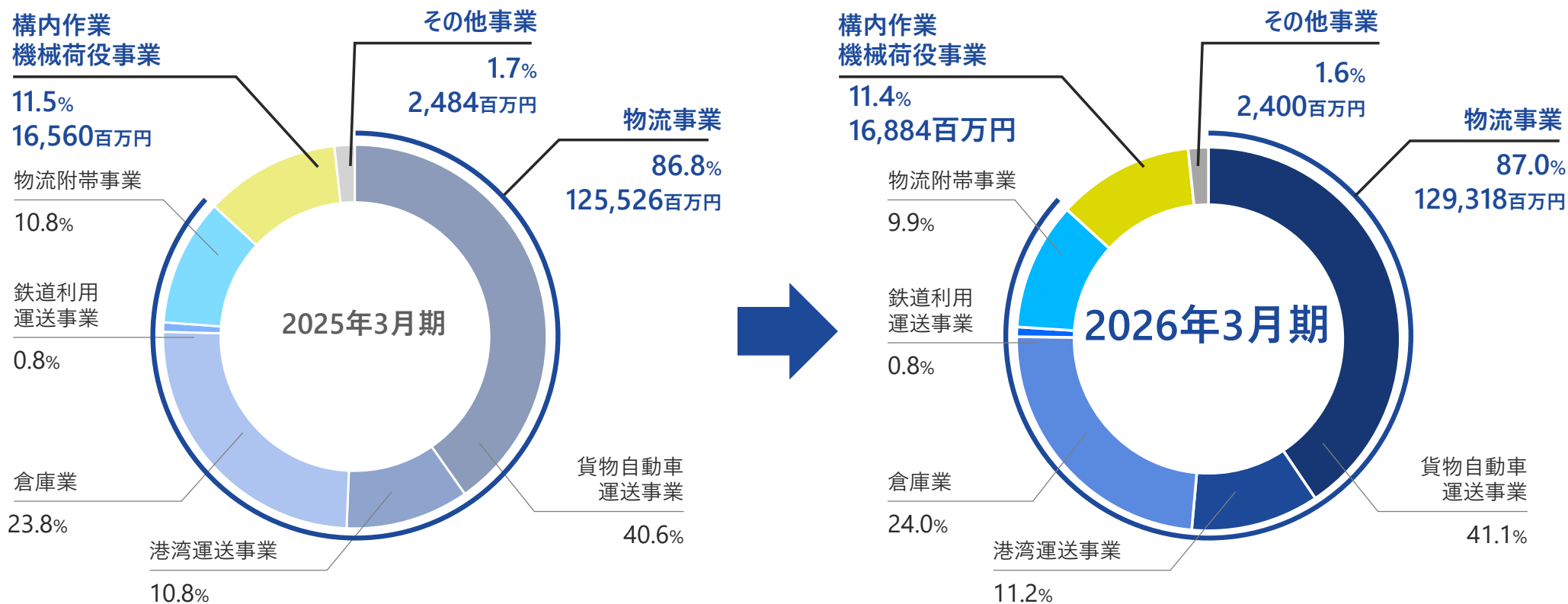
- 従来通り、物流事業の増収増益が付随事業にも波及、構内作業及び機械荷役事業は設備補修関連の取扱増加により増収増益

(単位：百万円)		2025年3月期	2026年3月期	構成比 (%)	差額	前期比 (%)	期初計画
全体	売上高	144,572	148,603	100.0	+4,031	+2.8%	153,000
	営業利益 (利益率)	14,648 (10.1%)	15,462 (10.4%)	100.0	+813	+5.6%	16,000
物流事業	売上高	125,526	129,318	87.0	+3,792	+3.0%	—
	営業利益 (利益率)	12,656 (10.1%)	13,427 (10.4%)	86.8	+770	+6.1%	—
構内作業 及び 機械荷役 事業	売上高	16,560	16,884	11.4	+323	+2.0%	—
	営業利益 (利益率)	1,499 (9.1%)	1,555 (9.2%)	10.1	+56	+3.7%	—
その他事業	売上高	2,484	2,400	1.6	△84	△3.4%	—
	営業利益 (利益率)	492 (19.8%)	479 (20.0%)	3.1	△13	△2.7%	—

## 2026年3月期：事業別売上構成比(前期比)

『物流は、愛だ。』

- 事業別売上構成バランスは前年同期比大きく変わらず。物流事業の構成比は、前年同期比同様の全売上の87.0%  
(物流事業は、貨物自動車運送事業、港湾運送事業、倉庫業、鉄道利用運送事業、物流附带事業で構成)
- 物流附带事業は、プラント設備や化成品の取扱減少により減収
- 構内作業・機械荷役事業は、設備補修関連の取扱増加による増収



## 2026年3月期：物流事業の内訳動向(前期比)

『物流は、愛だ。』

- 既存荷主の取り扱いが順調に増加（電力機器製品、建機類、青果物など）新規荷主の取引獲得、新規連結子会社増加

### 貨物自動車運送事業

増収

(前期比+4.1%)

- 酒類（新規）や電力機器関連製品等が好調
- M&Aによる新規連結子会社が増加し増収

### 港湾運送事業

増収

(前期比+10.9%)

- 新規荷主（酒類）の取引獲得
- 建機類の輸出入貨物や住宅資材の取り扱い増加

### 倉庫業

増収

(前期比+3.5%)

- IT機器や青果物他、既存荷主の取扱いは増加
- 合成樹脂の新規取り扱いがあり増収

### 物流附帯事業

減収

(前期比△9.1%)

- 外航船：プラント設備や化成品の取扱いが減少
- 荷捌：既存荷主の取扱いが減少

## バランス・シートの状況：拠点整備・拡大と基幹システム整備へ投資を積極化

『物流は、愛だ。』

- **建設仮勘定**：鹿島地区における新倉庫建設（2案件/2026年8月頃完成予定及び2027年1月完成予定）及び護岸工事（2026年6月頃完成予定）  
広島地区における新倉庫建設（2026年8月頃完成予定）
- **ソフトウェア仮勘定**：次期基幹システムを構築中
- **投資有価証券**：政策保有株式の縮減を進めるも、時価上昇により増加

### 資産の部

(単位：百万円)	2026年3月期末	前期末増減
<b>流動資産</b>	<b>72,368</b>	255
現金預金	19,553	△1,953
受取手形、営業未収金、契約資産	27,395	△572
有価証券	21,596	5,397
<b>固定資産</b>	<b>132,216</b>	12,242
建設仮勘定	3,119	2,583
ソフトウェア仮勘定	4,852	1,088
投資有価証券	34,497	7,311
<b>資産合計</b>	<b>204,585</b>	12,497

### 負債・純資産の部

(貸借対照表一部抜粋)

(単位：百万円)	2026年3月期末	前期末増減
<b>流動負債</b>	<b>32,923</b>	△1,563
支払手形・営業未払金	13,193	203
短期借入金	9,808	△1,956
<b>固定負債</b>	<b>27,283</b>	1,834
長期借入金	12,605	△901
繰延税金負債	9,384	2,240
<b>純資産</b>	<b>144,377</b>	12,226
株主資本	123,930	6,949
その他包括利益計	18,111	5,039
<b>負債純資産合計</b>	<b>204,585</b>	12,497

## キャッシュ・フローの状況：増加するフリー・キャッシュ・フローを成長投資と株主還元へ『物流は、愛だ。』

- 営業活動によるキャッシュ・フロー：増益による増加、売上債権が増加になるものの前年同期比増加
- 投資活動によるキャッシュ・フロー：子会社株式への投資の増加はあるものの、政策保有株式の売却、成長戦略における設備投資が前期より減少の為、前年同期比減少
- 財務活動によるキャッシュ・フロー：株主還元の強化（配当金の増配）を実施により前年同期比増加

(単位：百万円)	2025年3月期	2026年3月期	増減	主な要因
現金及び現金同等物の期首残高	41,202	38,105	△3,096	
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,267	17,166	+899	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,423	△5,401	+5,022	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子会社株式取得による支出額増加</li> <li>・固定資産取得による支出額減少</li> </ul>
フリー・キャッシュ・フロー	5,843	11,765	+5,922	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,122	△9,507	△385	
現金及び現金同等物に係る換算差額	182	39	△142	
現金及び現金同等物の期末残高	38,105	40,402	+2,297	



## 2. 2027年3月期見通し

## 見通しの前提条件：事業環境と当社の対応

『物流は、愛だ。』

- 主力の物流事業は、今期も、3PL事業、グローバル物流事業、成長ターゲット（産業機械・半導体材料・蓄電池・電子部品・サーキュラーエコノミー）案件等の新規案件獲得を見込む
- コスト高については、価格改定による料金適正化を進め、収益力もアップへ

全体	<p>設備投資の増加などによる物流需要の回復</p> <p>M &amp; Aによる新規連結会社増加による増収</p>	<p>リスク要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経済状況（中東情勢）の不確実性</li> <li>● エネルギーや原材料のコスト高</li> </ul>
<p>物流事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3PLをはじめとした新規業務の獲得</li> <li>● アグリ関連・危険物物流の取り扱い拡大</li> <li>● グローバル物流事業の拡大</li> <li>● 国際園芸博覧会関連の業務獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ドライバー不足</li> <li>● 同業間の価格競争</li> <li>● 原油価格の高止まり、電力料の高騰</li> </ul>
<p>構内作業 機械荷役事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 得意先工場構内作業は、需要回復を見込み取り扱い増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特定業界・特定取引先への依存度</li> </ul>
<p>その他事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内の設備移設案件や機械据付案件は需要回復を見込み取り扱い増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業員不足</li> <li>● 資材費高騰</li> </ul>

## 2027年3月期見通し： 売上高1,620億円（+9.0%）、営業利益170億円（+9.9%）

『物流は、愛だ。』

- 中期経営計画2年目の目標は変更せず
- 売上高は9%増収と前期実績よりも増収率は上昇、過去最高を見込む
- 営業利益及び経常利益は過去最高益を更新、14期連続増益へ

(単位：百万円)	2026年3月期実績	構成比 (%)	2027年3月期予想	構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	148,603	100.0	162,000	100.0	+ 9.0
売上総利益	20,617	13.9	22,500	13.9	+ 9.1
販売費及び一般管理費	5,155	3.5	5,500	3.4	+ 6.7
営業利益	15,462	10.4	17,000	10.5	+ 9.9
経常利益	16,648	11.2	17,500	10.8	+ 5.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,685	8.5	13,000	8.0	+ 2.5

## 2027年3月期見通し「事業別売上高・営業利益」

『物流は、愛だ。』

- 主力の物流事業は前期実績を上回る増収率（前期は3.0%）を見込む。売上高 +120億円（+9.3%）営業利益 +13億円（+10.3%）

	(単位：百万円)	2026年3月期	2027年3月期予想	差額	前期比（%）
全体	売上高	148,603	162,000	+13,396	+9.0
	営業利益 (利益率)	15,462 (10.4%)	17,000	+1,537	+9.9
物流事業	売上高	129,318	141,400	+12,082	+9.3
	営業利益 (利益率)	13,427 (10.4%)	14,810 (10.5%)	+1,383	+10.3
構内作業及び 機械荷役事業	売上高	16,884	18,000	+1,116	+6.6
	営業利益 (利益率)	1,555 (9.2%)	1,660 (9.2%)	+105	+6.8
その他事業	売上高	2,400	2,600	+200	+8.3
	営業利益 (利益率)	479 (20.0%)	530 (20.4%)	+51	+10.6

## 2027年3月期 案件の見通し

『物流は、愛だ。』

- 2026年3月期：新規3PL案件の獲得が想定通りとならず、期初計画は下回ったが、幅広い既存荷主の貨物取扱が増加
- 2027年3月期：既存荷主を中心に新規案件の獲得や取扱量の増加により、前年同期比増加へ

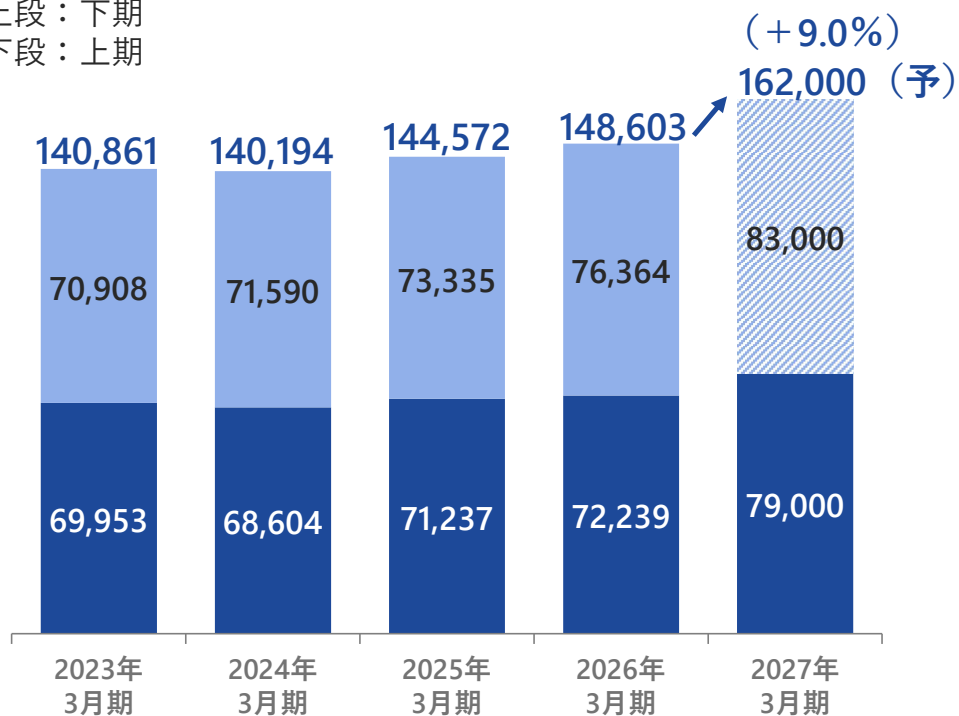
2026年3月 実績案件		2027年3月 見込み案件	
実績	効果	見込	効果
<b>酒類販売A社</b> 酒類の保管・荷役・輸送案件 (新規)	関東・東北地区における 業務拡大	<b>住宅資材メーカーA社</b> 住宅資材の保管・荷役・ 輸送案件 (既存)	関東地区における取扱量の 拡大
<b>建設機械メーカーA社</b> 建設機械の輸入業務案件 (既存)	関東地区における取扱量の 拡大	<b>商社A社</b> 地下鉄車両の輸出・輸送案件 (新規)	輸出一貫業務の獲得による 業務拡大
<b>電力機器メーカーA社</b> 電力機器関連の保管・荷役・輸送 案件 (既存)	関西地区における取扱量の 拡大	<b>種苗メーカーA社</b> 植物・苗の輸送案件 (新規) <b>飲料メーカーA社</b> 飲料・店舗什器の保管案件 (新規)	国際園芸博覧会関連の 業務獲得による拡大

# 決算状況の推移 今期も増収増益で、経常利益は2014年3月期から14期連続増益へ 『物流は、愛だ。』

- 増収増益基調で、引き続き企業価値向上へ成長を持続

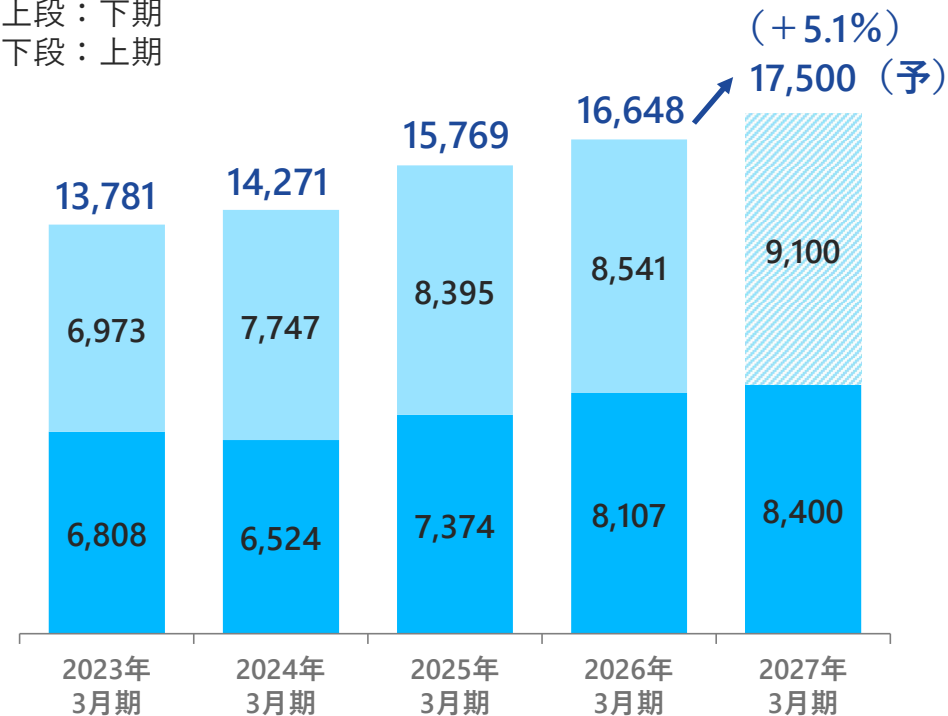
## 売上高（営業収益）


(百万円)  
上段：下期  
下段：上期



## 経常利益

(百万円)  
上段：下期  
下段：上期





# 3. 事業の進捗とトピックス 第9次中期経営計画（1年目）の進捗状況

## お客様第一主義

当社は、お客様の工場構内物流を担い、貨物に関する深いノウハウを長年にわたり蓄積

当社が提供する、お客様のニーズに沿った最適な物流提案を行う、高品質なサービスの原点

### 自社アセット主義

お客様の貨物の特性に合わせた  
多様な自社物流アセットを活用

### プラスアルファのオペレーション

お客様のニーズに応じて  
製造工程の一部を代行するなど、  
業務をカスタマイズし、標準化

### 総物流

お客様のニーズに合わせ、  
多様な物流サービスを展開

お客様に最適な物流をカスタマイズしてご提案

売上の拡大

- ①3PL事業
- ②成長ターゲット
- ③新規・既存荷主
- ④グローバル物流事業

- 3PL・成長ターゲットの大型案件の獲得に至らず
- 3PLと共同物流のノウハウを組み合わせた提案に注力
- 差別化分野（農産物・危険物）の取扱拡大を推進
- タイ新倉庫竣工（2026年8月）に向けた集荷活動

事業競争力の強化

- ①3PL事業の強化
- ②ロジスティクス事業の基盤強化
- ③グローバル物流事業の拡大
- ④構内作業／その他の事業の強化

- 業界別物流共同化を推進、既存3PL業務の標準化の展開
- 国際園芸博覧会（2027年）に関する営業活動の推進
- 国内外物流拠点の拡充、自社車両・専属備車の増強によるネットワークの維持・強化
- 主に東南アジアにおける拠点新設に向けた情報収集活動

企業基盤の強化

- ①組織の改革
- ②設備投資の促進
- ③M&Aの実施およびアライアンスの強化
- ④人的資本の活用と強化
- ⑤DX戦略の推進
- ⑥営業推進体制と機能の強化
- ⑦サステナビリティに関する取り組み

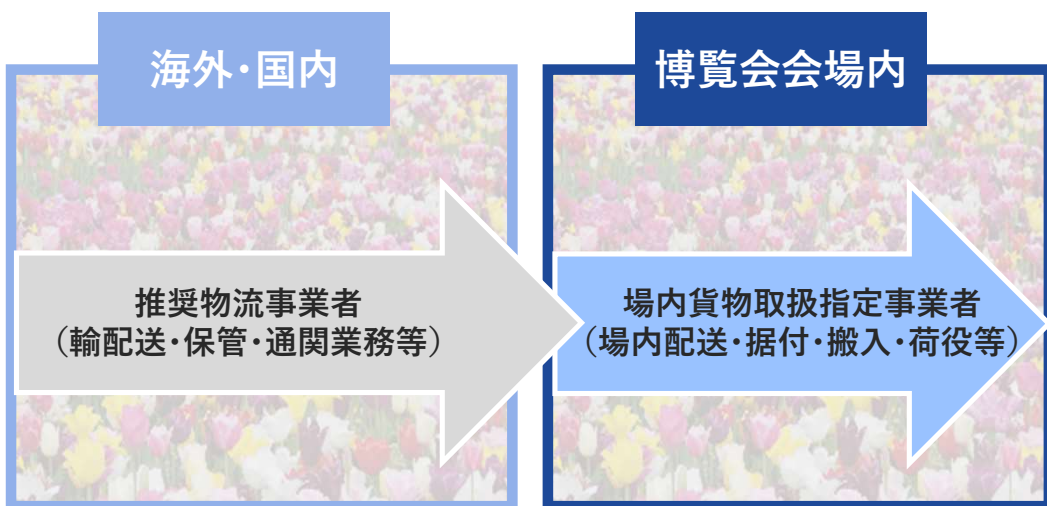
- 専門性・機能強化を図るための組織新設・再編の検討
- EBITADAを事業所評価指標の一つとして導入を検討
- M&A案件の検討・実施
- グループ会社の人事制度改定
- 企業内大学の積極的な受講推進
- AI機器を活用した安全教育
- 次期基幹システムの構築・段階的に運用開始（2026年3月～）
- 健康経営優良法人2026（大規模法人部門）認定

## トピックス① 国際園芸博覧会対応が予定通り、今年度下半期にスタート

『物流は、愛だ。』

- 当社は商船三井ロジスティクス株式会社と共同で、推奨物流事業者、場内貨物取扱指定事業者として選定
- 現在、物流事業者として準備中。今年度の案件として、収益予想(物流事業\*貨物自動車運送事業及び倉庫業)には織り込み済み

### 当社と商船三井ロジスティクスとの連携による一貫対応



### 最適な物流アセットの提供

#### 東名横浜物流センター



- ・ 博覧会会場に隣接した倉庫を用意。
- ・ 搬入出のリードタイムを最小限に抑え、出店事業者の急な要望にも即座に対応できる体制を整備。

#### 大黒定温倉庫



- ・ 輸入直後の検疫から一時保管、配送までを一貫して対応可能。
- ・ 国際的な園芸博覧会ならではの専門的な物流ニーズに対応可能。



GREEN×EXPO 2027を応援しています

## 高品質な物流サービスにより博覧会をサポート

## トピックス②：新基幹システム「MALoSシステム」が稼働開始（2026年3月～）

『物流は、愛だ。』

- 基幹システムの再構築を実施し、業界毎の物流特性を吸収できるシステムの柔軟性を確保  
統合データベースに詳細データを格納し、データビジネスに活用
- 今後当社は【情報活用型】へとビジネスモデルの転換を図っており、データドリブン経営の基礎となるべく、  
物流データを取得する器として、MALoSシステム構築を実施



### ● MALoSシステムとは？

「MALoS (Maruzen Advanced Logistics Solution)」とは、3PLを発展させた当社独自のLLP (Lead Logistics Provider) サービスの総称。

このサービスを提供するための基盤となる新システムを『MALoSシステム』と呼称し、構築を展開。

### ● MALoSシステムの稼働スケジュール

2026年03月	：パイロット稼働	
2026年11月	：経理系システム	全社へ順次展開
2027年05月	：輸出入システム	全社一斉稼働
2028年10月	：倉庫／輸配送システム	順次稼働
2031年10月	：固有システム完了	

## トピックス③：エジプト・カイロへ地下鉄車両の輸送開始

『物流は、愛だ。』

- カイロ地下鉄4号線向け鉄道車両 184両の輸送業務を受注
- 2026年3月12日、初回出荷となる8両を神戸港からアレキサンドリア港向けに出荷
- 2028年3月期上期（2027年7月）まで収益寄与(物流事業・物流付帯事業)見込み

丸全昭和運輸の海外ネットワークを活用し海外インフラを支える  
日本製鉄道車両の供給に対しプロジェクト輸送のノウハウと実行力を発揮する取り組み

神戸港からアレキサンドリア港に向けて自動車専用船にて出荷



## トピックス④：危険物ネットワークが更に拡充

『物流は、愛だ。』

広島県 東広島市

広島倉庫

2026年8月開設予定



- 一般倉庫の他、危険物倉庫も備えており、毒劇物の保管も対応可能
- 敷地面積（約24,500㎡）が当社グループ西日本地区において最大規模

当社の得意分野である  
危険物ネットワークの更なる拡充へ

## 危険物ネットワーク



## トピックス④-1：今後完成予定の拠点

『物流は、愛だ。』

- コロナ禍で抑制されていた設備投資を積極的に促進

### 拠点一覧

★ 現在着工中

名称	所在地	延床面積（予定）	ねらい	完成予定
★ 広島倉庫	広島県東広島市	14,412m <sup>2</sup>	化学品を中心とした幅広い貨物の取り扱い拡大	2026年8月頃
★ レムチャバン倉庫	タイ王国	6,423.25m <sup>2</sup>	自社オペレーションにより、高品質な物流サービスを提供する、当社の日本国内における成長モデルを海外でも展開	2026年8月頃
★ 常陸那珂倉庫	茨城県那珂郡	4,960m <sup>2</sup>	当社アグリ物流の一角を担う常陸那珂倉庫の拡大	2026年8月頃
★ 埼玉危険物倉庫	埼玉県加須市	990m <sup>2</sup>	化学品を中心とした幅広い貨物の取り扱い拡大	2027年1月頃
★ 東深芝危険物倉庫	茨城県神栖市	1,988m <sup>2</sup>	化学品を中心とした幅広い貨物の取り扱い拡大	2027年1月頃
伊那倉庫	長野県上伊那郡	3,800m <sup>2</sup>	一部顧客のニーズに応じて保管場所の拡大	2027年4月頃
笠間物流センター第2期倉庫	茨城県笠間市	3,000m <sup>2</sup>	大豆を中心とした原料の取り扱い拡大	2028年3月頃

## トピックス④-2：今後完成予定の拠点

『物流は、愛だ。』

### レムチャバン倉庫（タイ王国） 2026年8月頃竣工予定

ねらい：自社オペレーションにより、高品質な物流サービスを提供する、  
当社の日本国内における成長モデルを海外でも展開

\*完成イメージ

延床面積：6,423.25㎡

#### 特徴／備考

一般倉庫の他、危険物倉庫、空調庫を備えており、レムチャバン港、近隣の工業団地へのアクセスが優れ、輸出入貨物の取り扱いの点で有利な立地大規模な敷地面積（約25,500㎡）を誇る



### 常陸那珂倉庫（茨城県那珂郡） 2026年8月頃竣工予定

ねらい：当社アグリ物流の一角を担う常陸那珂倉庫の拡大

\*完成イメージ

延床面積：4,960㎡

#### 特徴／備考

定温倉庫の他、空調倉庫、天井クレーンも備えており、農産物をはじめ、幅広い貨物の取り扱いが可能



### 埼玉危険物倉庫（埼玉県加須市） 2027年1月頃竣工予定

ねらい：化学品を中心とした幅広い貨物の取り扱い拡大

\*完成イメージ

延床面積：990㎡

#### 特徴／備考

300坪の危険物定温倉庫(20度以下)で第2類、第4類1~4石油類、アルコール類の危険物保管が可能。ドラム・缶・ケース等様々な荷姿の危険物の取扱が可能



### 東深芝危険物倉庫（茨城県神栖市） 2027年1月頃竣工予定

ねらい：化学品を中心とした幅広い貨物の取り扱い拡大

\*完成イメージ

延床面積：1,988㎡

#### 特徴／備考

第4類1~4石油類、アルコール類、第5類の危険物保管が可能。300坪の危険物常温倉庫と300坪の危険物定温倉庫(+5度~+20度)を併設。幅広い危険物の取り扱いが可能



## 当社人材開発・強化の要

中期経営計画達成など企業価値向上へ組織力強化が重要

現場力で築いた強固な顧客との信頼を土台に、今後はサステナブル社会の実現に向け、次世代物流のデジタルプラットフォームを通じてお客様のサプライチェーン全体を支援するために、**企業内大学の機能を強化**。  
社員一人ひとりの能力を最大限に引き出すことができる高度な教育を展開し、顧客課題に深く入り込む信頼されるプロフェッショナル人材の継続的な輩出を実現し、企業価値の更なる向上へ。

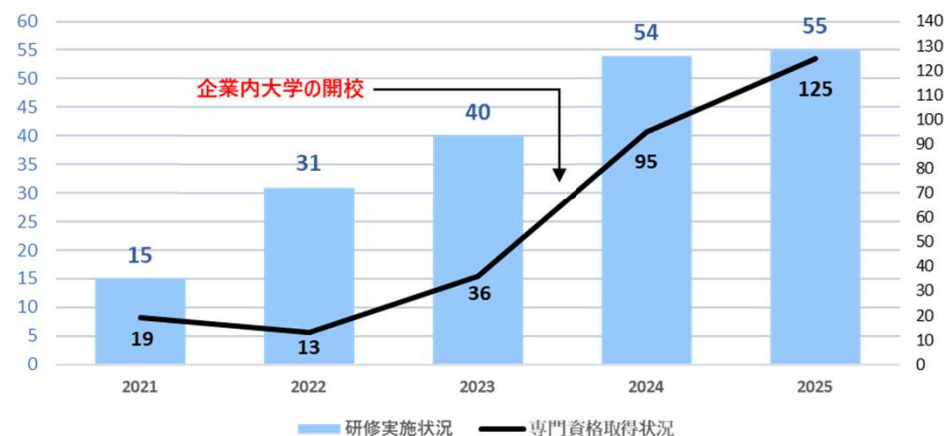


## 社員教育の拡充

- 3PL及び物流改善技術の知識とスキルの向上を目的とした実践教育の実施
- **企業内大学（Maruzen Logistics College）の機能強化**  
社員の学習意欲を高め積極的に学ばせ、能力を最大化することで、企業価値向上に資する人的資本投資を推進  
教育を通して働き甲斐を追求することで、エンゲージメントと生産性を高め、企業価値創出
- **専門資格取得支援**  
物流技術管理士/国際複合輸送士/国際物流管理士/その他当社の戦略に沿った資格

## 企業内大学の強化

研修実施状況と専門資格取得状況から見る人材育成の進展



### 安全・安心な物流を提供することが今後の成長につながると認識

#### AI搭載ドライブレコーダーの導入



- 全車両にAIドライブレコーダーの導入
- AIを搭載するドライブレコーダーは、ドライバーの挙動を画像認識AIで分析し、わき見・居眠りなど運転中の危険行動を即時にドライバーへ警告
- わき見や携帯操作による事故の発生0件
- 道交法違反等の不安全運転を減少させ、危険回避動画等をドライバー間で共有し、安全意識を更に向上

#### トラック／フォークリフト安全運転技能競技会



- 全グループと協力会社から選出された選手による、トラック、フォークリフトの運転技能競技会をそれぞれ毎年開催
- 当社の強みである品質にさらに磨きをかけ、グループ横断の競技会にすることで、グループ間の連携をさらに強化
- 今後も、定期的に競技会を開催することで、グループ全体の事故を撲滅、安全意識を向上へ

#### 積極的なQC活動の促進



- 当社グループでは、長年MAQ活動（QC改善活動）を改善活動のDNAとして位置づけており、毎年全社大会を開催
- MAQ活動は業務の効率化・品質向上・人材育成の三本柱を軸に、社員一人ひとりの創意工夫を活かした現場改善を継続的に推進、お客様や社会のお役に立つ活動に

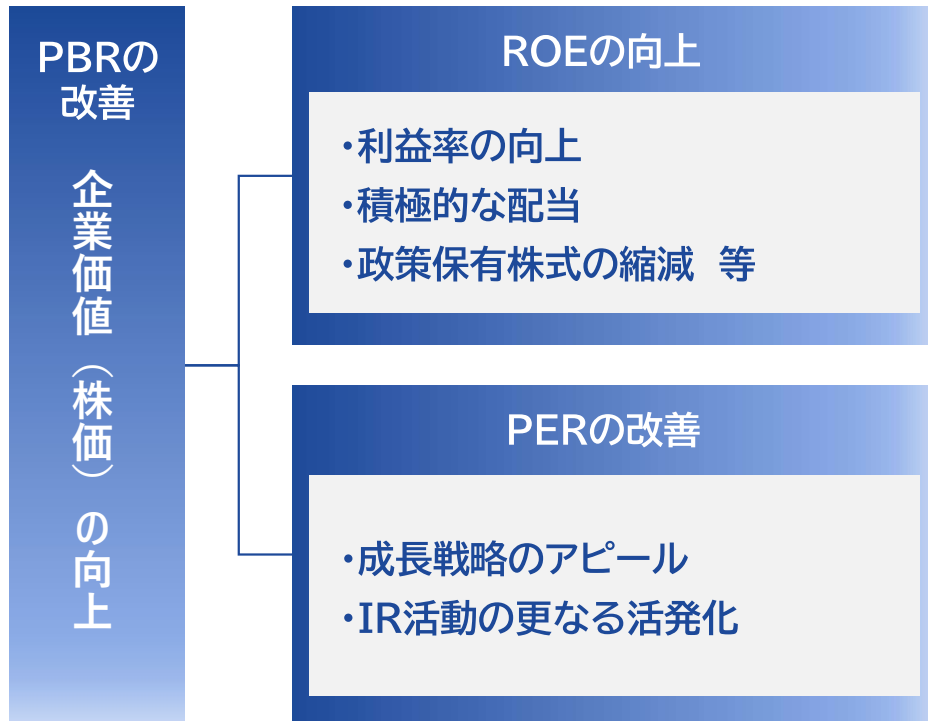
\*MAQ：Maruzen All Qualityの略称



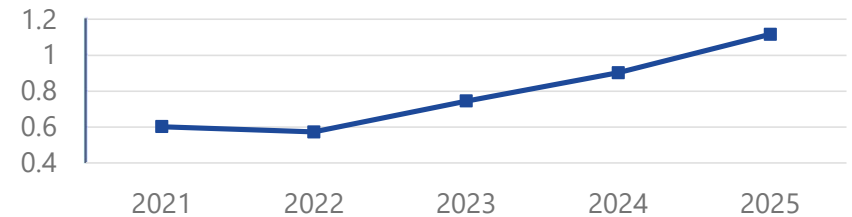
## 4. 株主還元・企業価値向上への取り組み

## ● PBR1倍超が定着。今後は更なるROE向上とPER（利益成長期待）を高める成長戦略の浸透を更に推進

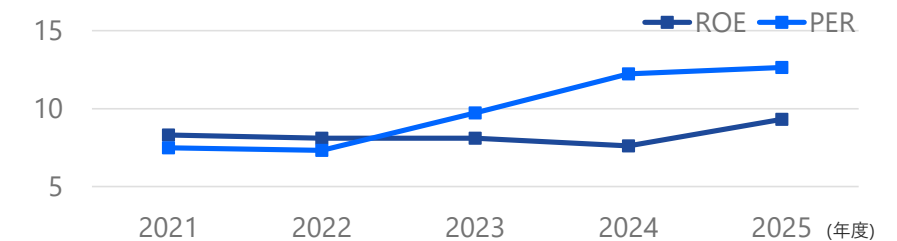
- 株価は、上昇基調にあり、実績PBRは1倍超で推移（実績PBR 1.08倍、予想PER 11.96倍、株価（終値）7,980円（2026年5月15日現在））  
他方、当社の成長性を一層評価していただくために、企業価値向上策への取組みは持続的に行う必要あり
- $PBR = ROE \times PER$  の関係から 従来通り PBRを上げるためのROE向上とPER改善の取組みを推進
- PER改善のためには $PER = \text{株価} \div \text{EPS}$ （一株あたり利益）なので、成長戦略のアピールを一層強化して、EPS期待成長率を上げる必要あり



### PBRの推移



### ROEとPERの推移



- 持続的な事業成長を見据え、拠点新設への積極的な投資を推進  
M&Aは外部調達も活用し、積極的に検討・実施

キャッシュ・イン (2025~2027)	キャッシュ・アウト (2025~2027)	2025進捗	2026計画
<p>営業C/F (530億円)</p> <p>現預金 + 投資有価証券売却 (100~120億円)</p> <p>外部調達 (+α)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成長投資 (270億円)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内外物流拠点の拡充</li> <li>・ 3PL高度化投資</li> <li>・ 物流プラットフォーム構築</li> </ul> </li> </ul>	2025実績：31億円	73億円 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 笠間物流センター2期倉庫</li> <li>・ 伊那3号倉庫</li> <li>・ 赤穂危険物倉庫他</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DX投資 (50億円)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次期基幹システム開発</li> <li>・ 機器・施設導入</li> </ul> </li> </ul>	2025実績：13億円	15億円
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 維持更新投資 (80億円)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 倉庫・ターミナル・トラック</li> </ul> </li> </ul>	2025実績：26億円	38億円
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● M&amp;A (100億円)</li> </ul>	2025実績：4.4億円	未定 (積極的に検討)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主還元 (130~150億円)</li> </ul>	2025実績：45億円 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 2026年3月期配当予想 前期比40円増配：210円/株</li> <li>▪ 自己株式購入：21億円</li> </ul>	安定的な配当を実施

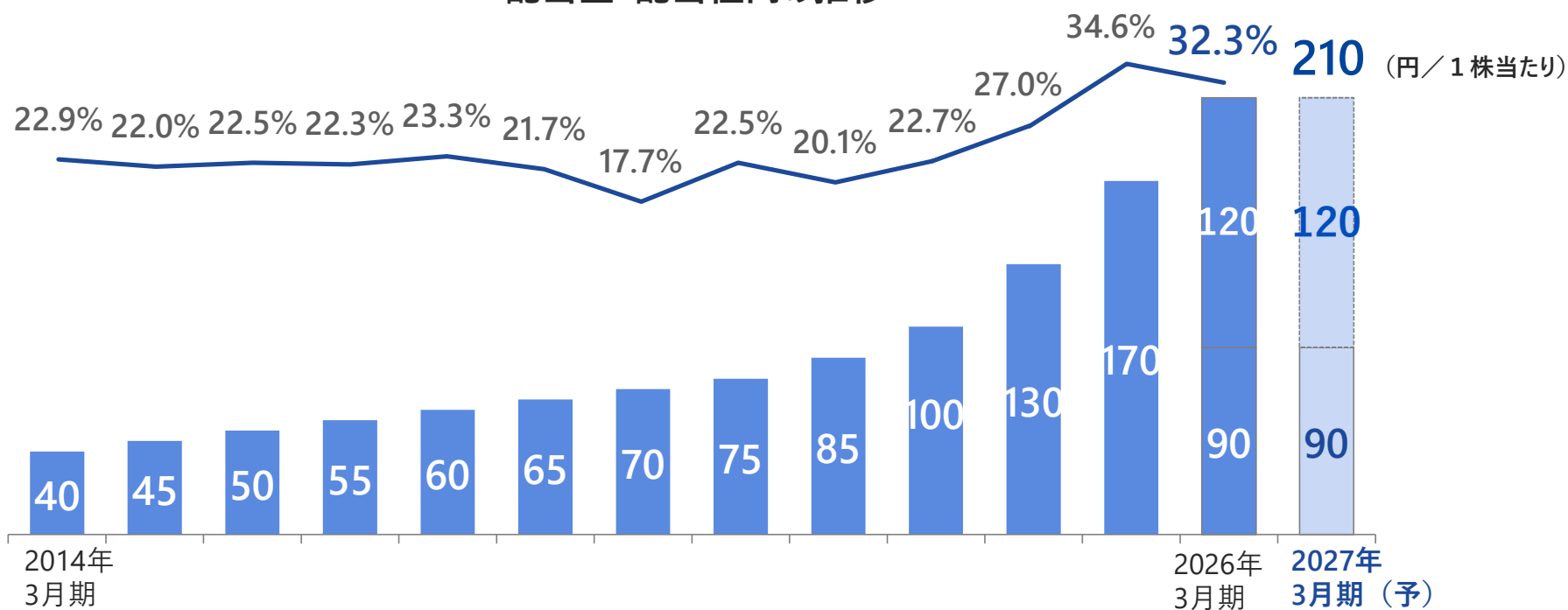
## 株主還元：2026年3月期は、通期配当で前期比40円増配の210円を予定

『物流は、愛だ。』

基本方針：業績と配当性向、株主資本利益率などを総合的に勘案し、長期的に安定した配当を継続

- 2026年3月期まで12期連続増配
- 投資資金を確保しながらも、3年間の連結ベースで配当性向35%を視野に、株主還元を引き続き積極化

### 配当金・配当性向の推移



- 本資料は、当社内容をご理解いただくための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日、現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、正確性を保証するものではありません。
- 実際の業績等は、様々な不確定要素により異なる場合がございますことをご了承ください。



東証プライム  
9068

2026年5月



総務部 法務・株式課

TEL

045-671-5716

E-mail

s-kabushiki@maruzenshowa.co.jp